

遊学

ふたかみ文化センター
楽しみ方・遊び方・学び方

◆香芝市民図書館の楽しみ方

ビデオやCDが楽しめる

開かれた図書館を目指す香芝市民図書館には幾つかなの特徴があります。その一つが視聴覚関係資料の充実。つまりはビデオやレーザーディスク、CD、カセットが見たり、聞いたりできるのです。この図書館に備えられた蔵書数は全体で九万三千八百十九点ですが（平成五年三月末、そのうち視聴覚関係資料が二千八百十五点そろっています）。

たとえばビデオ、入ってすぐの所にある視聴覚室には十基のブースがあり、子どもたち向けのアニ

メから映画をはじめ、歴史や自然などのさまざまな映像が楽しめます。センターブースだけでなく、個人で楽しめるパーソナルブース、そして小人数が音声を出して見られる個室も完備しています。

また、ここではビデオの貸し出しも行っています。これは著作権が関係しますので図書館協会に許可が得られたものに限られますが、大方の名作などはそろっています。貸し出しは無料なので、このビデオやCD、カセットは大人気です。



◆香芝市民図書館の遊び方

子供の本のへや・おはなし室で遊ぼう



ふたかみ文化センターの三階フロアーを全面的に占めている図書室はゆったりとしたスペース。明るく、広くとられた開架フロアー書架では落ち着いて本が探せ、新聞・雑誌コーナー、閲覧コーナーなどの各コーナーは利用しやすいようにレイアウトされています。香芝市民図書館の特徴の一つに、児童文学関係の資料の充実があげられます。子供たちへどんな本を

読んであげたらいいのか、それが分からないというお母さんたちも多くなりますが、そんな時にこの図書館の児童図書コーナーがお役に立てるでしょう。児童図書のブックリストも作っています。児童図書コーナーの奥には子供の本のへや・絵本コーナーがあります。ここは子供たちが椅子から解放されて、ねころがったり、腹ばいになったり、思い思いの格好

で自由に本が読めるようにと作られました。少しくらいお行儀が悪くても、子供たちが遊びながら、楽しみながら本に親しむ習慣がついて、本の面白さを体験できるようにと考えられました。これから本に親しむ子供たちへの開かれた図書館といえるでしょう。隣にはおはなし室が設けられて

◆香芝市民図書館の学び方

最新機器が完備の情報検索コーナー

図書館は受験生が勉強する場所ではなく、市民みんなが本を積極的に利用するスペースだという理念の香芝市民図書館は、それだけにあらゆる形で本に対する取り組みがおこなわれています。たとえば本の検索一つをとって

も、ここではコンピューターを使って館内の蔵書を自由に検索できるようにしています。また、パソコン通信を利用した奈良県生涯学習情報システムやCD-ROM検索などができるコンピューター情報の宝庫、つまりは情報化図書館といえるでしょう。

また館内に設けられた対面朗読室でボランティアによる視覚障害者対象の対面朗読がおこなわれていることも、市民みんなに活用される図書館としての機能を果たしていることを示しています。

いますが、ここでは第一・二・四土曜日の午後にはおはなし会がおこなわれています。ボランティアの方々による季節感を取り入れた紙芝居や手遊びをおこなっています。三十〜四十人の子供たちがいつも集まって楽しそうにはおはなしに聞き入っています。



香芝市民図書館は、市民の誰にでも開かれた図書館、また情報資料や本に親しむ図書館として、最新の機器と充実した施設、そして体制が整えられています。